

学 会 記 事

◎昭和 40 年度第 1 回理事会 (40.6.18)

出席者：岡部会長、大石、水野両副会長、羽田専務理事、青木、伊藤、板倉、宇野、内林、春日屋、久保、近藤、斎藤、篠原、多谷、鍼、富所、成岡、耳野、村上、森垣、八木、安宅、渡部の各理事、および井関、武内の各監事。議事録署名理事の決定：岡部会長、羽田専務理事、伊藤理事。A. 報告事項：羽田専務理事よりつぎの各項について報告があった；1) 会計報告。2) 刊行物頒布報告。3) 各種委員会報告。4) 副会長の会長代理順位について、岡部会長からつぎのとおり指名があった；1. 大石副会長 2. 水野副会長 3. 山内副会長。5) 次期日本学術会議会員候補者として下記の二氏を推せんする旨報告があり了承。

石 原 藤次郎君 京都大学教授
平 井 敦君 東京大学教授

6) 会員の入退会について。B. 協議事項

: 1) 40 年度会務担当理事を下記のとおり決定

総務：伊藤、渡辺、成岡の各理事
企画：松尾、森垣、耳野の各理事
経理：鍼、藤田、内林の各理事
編集出版：春日屋、斎藤、久保の各理事
調査研究：篠原、友田、佐藤の各理事

2) 昭和 42 年度の総会その他実施支部を原案通り「中国・四国支部」に決定。3) 第 28 回国際住宅計画会議に協賛することを了承。4) 高張力異形鉄筋の研究受託について羽田専務理事より説明があり承認。5) その他；①構造の軽量化に関するシンポジウムの共催を承認、②日本コンクリート会議理事として水野高明氏（九州大学工学部長）を推せんすることに決定、③第 2 回災害科学総合講演会の後援を了承。6) 支部長をつぎのとおり委嘱

北海道支部
支部長 中村 稔 北海道庁土木部長
(幹事長 本間 四郎 北海道庁土木部道路課長)

東北支部
支部長 河上 房義 東北大学教授
(幹事長 富所 強哉 建設省東北地方建設局企画室長)

関東支部
支部長 当山 道三 日本大学教授
(幹事長 堀 耕毅 日本大学教授)

中部支部
支部長 北村 正之 愛知県土木部長
(幹事長 伊藤 純三 愛知県土木部接監)

関西支部
支部長 玉井 正彰 KK 鴻池組常務取締役
(幹事長 松尾 新一 京都大学教授)

中国四国支部
支部長 褚田 恒夫 広島県土木建築部長

(幹事長 竹元千多留 広島県土木建築部道路課長)
西部支部
支部長 秋竹 敏実 建設省九州地方建設局長
(幹事長 田原 隆 建設省九州地方建設局技術管理官)

7) 委員長および委員をつぎのとおり委嘱

① 海外連絡委員会委員長
伊藤 剛 電力中央研究所産業計画会議委員

② 土木賞委員会委員
岡部 三郎 会長 東亜港湾工業 KK 取締役社長

水野 高明 副会長 九州大学教授工学部長

岩崎 敏夫 東北大学教授

井上 孝 関 東 東京大学教授

有江 義晴 " 首都高速道路公団工務部長

倉田 宗章 関 西 大阪市立大学教授

内田 一郎 西 部 九州大学教授

③ 衛生工学委員会
委員 宮脇 俊夫 国立公衆衛生院衛生工学部

④ 耐震工学委員会
高畠政信委員退任のため

委員 福田 克彦 電源開発 KK 水力建設部設計室

⑤ 岩盤力学委員会
副委員長 畑野 正 電力中央研究所技術研究所

幹事長 駒井 黙 水資源開発公団第 1 設計課

常任委員 林 正夫 電力中央研究所技術研究所

" 今井昭三 電源開発 KK 水力建設部設計室

幹事 柴田 功 建設省土木研究所赤羽分室

北原義浩 電力中央研究所技術研究所

吉川恵也 国鉄建設局線増課

⑥ 会誌編集委員会
任期満了者 文 任

委員 原田信昭 安井英夫 通産省公益事業局水力課

南部繁春 尾仲 章 建設省道路局高速道路課

土屋 昭 米田宗弘 東京都土木研究所

町田富士夫 吉村 恒 日本国鉄道

城野忠雄 国広安彦 農林省農地区開墾建設課

湯田坂益利 黒崎 謙 大成建設 KK 土木建設課

支部委員 管原照雄 渡辺 昇 北海道大学工学部

三浦 晃 倉西 茂 東北大学工学部

阿部泰夫 岩崎敏夫 東北大学工学部

玉井敏一 川上賢司 建設省中国地建企画室

赤尾親助 山田善一 京都大学工学部

小坪清真 徳光善治 九州大学工学部

長友文昭 沼田 淳 運輸省第4建設局港工事務所

門田博知 船越 稔 広島大学工学部

新任委員 西 敏賢 水資源開発公団計画部

前田 進 運輸省港湾局建設課

⑦ 出版企画委員会
任期満了者 文 任

委員 嶋 祐之 高橋 裕 東京大学工学部

委員 八十島義之 棚口芳朗 国鉄道技術研究所

久野悟郎 山口柏樹 東京工業大学土木工学科

北野 章 渡辺重幸 建設省河川局治水課

幹事 鈴木忠義 新谷洋三 東京大学工学部

⑧ 表彰制度審議委員会委員

伊藤 剛 電力中央研究所産業計画会議委員

岡本東一郎 白石基礎工事 KK 常務取締役

春日屋伸昌 中央大学工学部

熊川 信之 KK 建設技術研究所専務取締役

栗栖 義明 運輸省港湾局参事官

小林 元豫 建設省大臣官房技術参事官

小林 泰 水資源開発公団理事

河野 通之 国鉄構造設計事務所長

国分 正胤 東京大学工学部

千秋 信一 電力中央研究所技術研究所

永田 年 東京電力 KK 顧問

福田 武雄 東京大学名誉教授

星埜 和 東京大学生産技術研究所

増岡 康治 建設省大臣官房技術調査官

八十島義之助 東京大学工学部

⑨ 論文編集委員会

委員 村上 永一 建設省土木研究所所長

委員 大橋 曙光 建設省土木研究所千葉支所

堤 一 電力中央研究所技術研究所

西野 文雄 東京大学総合試験所

山内 利彦 名古屋工業大学土木工学科

白石 成人 京都大学工学部

遠山 啓 経済企画庁水資源局水質調査課

永井 雄郎 建設省関東地建河川計画課

山口 充博 東京都立根川水道建設所

角田 直行 建設省河川局治水課

椿 東一郎 九州大学工学部

板倉 忠興 北海道大学工学部

南部 桂一 国立公衆衛生院衛生工学部

都 淳一 国鉄道技術研究所

神田 徳郎 電源開発 KK 土木試験所

持永竜一郎 日本道路公团試験所

沢口 昌利 運輸省港湾技術研究所

池田 康平 国鉄構造設計事務所

秋山 政敬 東京都道路建設本部

鈴木 勝一 東京電力 KK 技術研究所

尾仲 章 建設省道路局高速道路課

大月 隆士 国鉄道技術研究所

永尾 勝美 国鉄施設局管理課

岩井 彦二 建設省都市計画課

青木 康雄 広島大学工学部

⑩ 文献調査委員会

委員 田沢 栄一 大成建設技術研究所第 7 研究室

西野 文雄 東京大学総合試験所

松井 家孝 電力中央研究所技術研究所

吉田 裕 東京大学生産技術研究所第 5 部

石崎 勝義 建設省土木研究所赤羽分所

鈴木 稔実 運輸省港湾技術研究所浪研究室

阿部 勝久 建設技術研究所

荒木 英昭 建設省都市計画課

稻見 悅彦 日本道路公团東名設計 1 課

宇井 純 東京大学工学部

委員 斎藤 武久	東京都首都整備局都市計画第1都市街地計画課
高崎 一郎	宮地鉄工所技術部設計課
松尾 友矩	東京大学工学部
⑩ 水理委員会 ○委員長 ○副委員長	
北海道 尾崎 晃	北海道大学工学部
〃 山岡 賢 同	
東北 岩崎 敏夫	東北大工学部
〃 井田 至春	建設省東北地建山形工事務所
関東 井口 昌平	東京大学生産技術研究所
〃 吉川 秀夫	建設省土木研究所
〃 久宝 保	日本大学理工学部
〃 古賀雷四郎	建設省河川局治水課
〃 坂本 竜雄	電力中央研究所技術研究所
〃 左合 正雄	東京都立大学工学部
〃 佐藤 清一	日本建設コンサルタントKK
〃 篠原登美雄	運輸省港湾局建設課
〃 竹内 俊雄	資源開発公団調査役
〃 清田 徳一	運輸省港湾技術研究所
〃 林 泰造	中央大学理工学部
〃 本間 仁	東京大学工学部
〃 三村 誠三	東京電力KK建設部
〃 横田 周平	KK東京鉄骨構梁製作所
〃 米元 卓介	早稲田大学理工学部
中部 沢田 周次	中部電力KK建設部
〃 細井 正延	名古屋工業大学工学部
○関西 石原藤次郎	京都大学工学部
〃 矢野 勝正	防災研究所
〃 田中 茂	神戸大学工学部
〃 永井莊七郎	大阪市立大学工学部
〃 合田 健	京都大学工学部
中国 杉尾捨三郎	徳島大学工学部
西部 篠原 謙爾	九州大学応用力学研究所
〃 吉高 益男	宮崎大学工学部
委員兼幹事○常任幹事	
○北海 岸 力	北海道大学工学部
○東北 三浦 晃	東北大工学部
関東 春日屋伸昌	中央大学理工学部
〃 木下 武雄	建設省土木研究所
〃 鳴 祐之	東京大学工学部
○〃 千秋 信一	電力中央研究所技術研究所
〃 高橋 裕	東京大学工学部
〃 早矢仕利雄	電源開発KK水力建設部設計室
〃 堀口 孝男	運輸省港湾局防災課
○〃 植貝 博美	東京工業大学工学部
○中部 足立 昭平	名古屋大学工学部
関西 岩垣 雄一	京都大学防災研究所
〃 石原 安雄	同 工学部
〃 岩佐 義朗	同
〃 芦田 和男	同
○〃 室田 明	大阪大学工学部
○〃 中川 博次	京都大学防災研究所
○中国 金丸 昭治	広島大学工学部
○西部 植 東一郎	九州大学工学部

◎各種委員会

- (1) 新潟震災調査委員会橋梁部門専門委員会(40.5.3)出席者:関係者2名。議事:橋梁編報告書原稿のとりまとめ。
- (2) 文献調査委員会(40.5.6)出席

- 者:高橋委員長、ほか12名。議事:1)50巻7巻登載抄録の決定。2)解説記事について。3)応用力学公式集出版について(出版企画委員会よりの調査)。4)文献リストについて(岩盤力学委員会、国会図書館)。5)委員の交代について。
- (3) 第86回耐震工学委員会(40.5.7)出席者:那須委員長、岡本副委員長、ほか11名。議事:1)本四耐震設計小委員会について。2)新潟震災調査委員会について。3)第8回地震工学研究発表会について。4)地震工学講習会開催について。5)委員の交代について。6)今後の運営について。
- (4) 本州四国連絡橋技術調査委員会第9回幹事会(40.5.7)出席者:関係者9名。議事:省略。
- (5) 新潟震災調査委員会河川部門専門委員会(40.5.10)出席者:関係者12名。議事:河川編報告原稿のとりまとめを行なった。
- (6) 会誌編集小委員会(40.5.10)出席者:樋口副委員長、ほか8名。議事:1)会誌50巻7号編集の件。2)懸賞論文募集要項について。3)その他。
- (7) 橋梁構造委員会第1回材料分科会(40.5.11)出席者:福田委員長、ほか9名。議事:1)日本工業規格の改正について。2)熱間圧延鋼板と鋼帯の形状、寸法および重量ならびにその許容差(案)について。
- (8) 本州四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会(現地観察)(40.5.13~16)参加者:29名。行程:省略。
- (9) 第10回PC鋼材分科会(40.5.13)出席者:富田主査、ほか14名。議事:技術資料の検討。
- (10) 本州四国連絡橋技術調査委員会縮小委員会打合会(40.5.17)出席者:2名。議事:省略。
- (11) 土木賞打合会(40.5.17)出席者:八十島学術賞主査、ほか3名。議事:昭和39年度土木賞授賞理由書作成について。
- (12) 出版企画委員会(40.5.17)出席者:森委員長、春日屋副委員長、ほか4名。議事:1)40年度出版物進捗状況報告(上半期)。2)39年度出版物収支決算報告。3)土木工学叢書の出版について。4)わかり易い土木講座(仮称)について。5)応用力学公式集(仮称)について。6)委員交代について。7)新規出版物に関するアンケート結果について。
- (13) 土木賞委員会幹事打合会(40.5.17)出席者:関係者3名。議事:土木賞授賞理由書の検討。
- (14) 本州四国連絡橋技術調査委員会縮小委員会幹事会(第2回)(40.5.18)出席者:関係者8名。議事:省略。
- (15) 本州四国連絡橋技術調査委員会縮小委員会(第2回)(40.5.18)出席者:関係者15名。議事:省略。
- (16) 新潟震災調査委員会幹事会(40.5.18)出席者:岡本委員長、ほか15名。議事:1)報告書とりまとめの進行状況、予定ページ数について。2)各部門の問題点、今後の作業予定。
- (17) 本州四国連絡橋技術調査委員会(第6回)(40.5.20)出席者:ほか39名。議事:省略。
- (18) 大学土木教育委員会(40.5.20)出席者:米屋委員長、嶋幹事長、ほか13名。議事:1)第1期委員会最終報告書案の検討。2)第2期委員会の発足について。
- (19) 高校土木教育委員会土質実験指導書改訂分科会(第2回)(40.5.21)出席者:関係者5名。議事:1)設問について。2)原稿の審議について。3)データシートの問題。4)その他。
- (20) 本州四国耐風設計小委員会第34回幹事会(40.5.21)出席者:関係者12名。議事:省略。
- (21) 橋梁構造委員会第2回材料分科会(40.5.24)出席者:関係者11名。議事:1)一般事項について。2)前回JIS委員会報告。3)次回JIS委員会について。
- (22) 岩盤力学委員会主査幹事会(40.5.25)出席者:畠野副委員長、駒井幹事長、ほか9名。議事:1)昭和40年度予算(案)について。2)第3回岩盤力学に関するシンポジウム。3)岩盤力学執筆経過。4)今後の運営方針。
- (23) 岩盤力学委員会第2分科会(第14回)(40.5.25)出席者:関係者11名。議事:1)奈良度ダムサイトにおける岩盤試験について。2)岩盤試験方法一覧表について。3)岩盤試験計測ブロックダイヤグラムについて。
- (24) 新潟震災調査委員会橋梁部門専門委員会幹事会(40.5.25)出席者:関係者6名。議事:橋梁編報告書原稿のとりまとめ。
- (25) 会誌編集本委員会(40.5.26)出席者:八十島委員長、樋口副委員長、ほか11名。議事:1)前回委員会報告。2)特集編集計画。3)その他。
- (26) 40年度第1回水理委員会(40.5.30)出席者:石原委員長、ほか23名。議事:1)委員改選にともない正副委員長の互選。

委員長 石原藤次郎 京都大学教授
副委員長 林 泰造 中央大学教授
2) 水工学夏期研修会について。3) 海岸工学国際会議について。

(27) 衛生工学委員会(40.5.30)出席者: 板倉委員長、ほか14名。議事: 決算、予算、事業計画について。

(28) 高校土木教育研究委員会第5回幹事会(40.6.4)出席者: 関係者8名。議事: 1) 委員および幹事長の交代。2) 実験指導書について; ①土質実験指導書、②材料実験指導書、③水理実験指導書。3) 指導要領について。4) その他。

(29) 本州四国耐震設計小委員会第28回幹事会(40.6.7)出席者: 関係者13名。議事: 省略。

(30) 土木図書館運営委員会(40.6.8)出席者: 米元委員長、ほか12名。議事: 1) 土木図書館の業務報告・運営上の問題点の審議。2) 図書購入状況の報告。3) 追加図書購入の件。4) 資料の整備方法。5) フィルム・ライブラリーについて。

(31) 表彰制度審議委員会打合会(40.6.8)出席者: 関係者10名。議事: 1) 土木学会における表彰制度のあり方につき審議。2) 委員会構成の確認。

(32) 本州四国第21回耐風設計小委員会(40.6.9)出席者: 関係者25名。議事: 省略。

(33) 第25回原子力土木技術委員会(40.6.9)出席者: 左合委員長、ほか12名。議事: 1) 科学技術庁委託研究について。2) 原子力発電所敷地選定に関する問題。

(34) 岩盤力学委員会第1分科会(第13回)(40.6.10)出席者: 関係者3名。議事: 主査幹事会経過報告。2) 岩盤力学執筆について。

(35) 岩盤力学委員会第4分科会(第12回)(40.6.11)出席者: 色部主査、ほか8名。議事: 1) 主査幹事会経過報告。2) 岩盤力学執筆について。3) 内圧をうける円孔の変形測定値による基盤の異方性の算定について(講演)名大川本委員。

(36) 岩盤力学委員会第5分科会(第5回)(40.6.11)出席者: 高橋主査、ほか10名。議事: 1) 主査幹事会経過報告。2) 変形トンネルの地圧測定例(講演)国鉄高橋委員。3) トンネルに関する理論の文献整理。4) 岩盤力学執筆について。

(37) 第87回耐震工学委員会(40.6.11)出席者: 那須委員長、岡本副委員長、ほか7名。議事: 1) 本四耐震設計委員会について。2) 新潟震災調査委員会について。3) 委員の交代について。4) 第8回地震工学研究発表会について。5) 地震工学講習会について。6) 今後の運営方針。

(38) 文献調査委員会(40.6.11)高橋委員長、千秋前委員長、ほか26名。議事: 1) 50巻8号登載抄録について。2) 解説記事について。3) その他。

(39) 大学土木教育委員会第27回幹事会(40.6.15)出席者: 米屋委員長、嶋幹事長、ほか7名。議事: 1) 総括報告書原稿の最終検討。2) 総括報告書添付資料の検討。3) その他。

◎その他

衛生工学関係者懇親会(40.5.29, 博多パラダイス)出席者: 59名

支部だより

◎北海道支部

(1) 41年度全国大会準備調査打合会(40.5.17)出席者: 板倉理事、町田理事、ほか4名。議事: 5月28日より西部支部で開かれる全国大会に参加する役職員の準備ならびに実行調査事項を分担協議した。

(2) 地震工学講演会(40.6.1, 道銀ビル)聴講者: 120名。記事: 本間幹事長の開会の辞の後つぎの講演を行なった。

講演: 銳敏比の高い厚い粘土に打ち込まれた杭上に建つ構造物の地震影

響について
講師: カリフォルニア大学教授 ジヨセフベンジン博士
通訳: 国際地震工学トレーニングセンター教授 中川恭次氏
共催: 北大工学部建築工学科・土木工学科・土質工学会支部・日本建築学会支部・北海道土木技術会
(3) 第2回幹事会(40.6.10, 札幌ホテル)出席者: 本間幹事長、ほか幹事全員。議事: 1) 支部事業計画。2) 技術資料原稿募集について。3) 事務局移転について。4) その他報告事項。

◎関東支部

(1) 第1回幹事会(40.4.7, 土木学会)出席者: 当山支部長、堺幹事長、ほか11名。議事: 支部総会開催について。

(2) 第4回学生映画会(40.4.17, 土木図書館講堂)映画: 4編 参加者: 60人

(3) 第5回学生映画会(40.5.15, 土木図書館講堂)映画: 4編 参加者: 55人

(4) 第2回幹事会(40.6.10, 土木学会)出席者: 当山支部長、堺幹事長、ほか9名。議事: 講演会、講習会、見学会について。

(5) 「海外進出の問題点」講演会(40.6.18, 土木図書館講堂)

題目・講師:
① 日本の海外進出に思う 安芸 敏一
② 海外進出に関する國の方針と開拓 畑谷 正実

③ 土木業界の海外進出は成功するか 石川 六郎

④ 海外土木の実状 宇野沢亮之助
映画: ダニユー発電所、参加者: 80人

(6) 第6回学生映画会(40.6.19, 土木図書館講堂)映画: 4編 参加者: 40人。

◎関西支部

第1回幹事会(40.6.11, 土木学会関西支部会議室)出席者: 玉井支部長、松尾幹事長、ほか17名。

昭和40年度土木学会誌編集委員会

委員長 橋口芳朗

委員長	浅谷陽治	天野礼二	茨木竜雄	上田勝基	大久保喜市	尾仲章	北田勇輔
委員	国広安彦	黒崎謙	小坂忠	斎木三郎*	堺幸七	佐藤尚徳	渋谷祥夫*
	高橋裕*	立石俊一	寺尾英二	豊島修*	中村正平	西敏賢	前田進
	安井英夫	横山義一	吉村恒	米田宗弘			
地方委員	(北海道支部)	(東北支部)	(関東支部)	(中部支部)	(関西支部)	(中四支部)	(西部支部)
	河野文弘	岩崎敏夫	番二郎	酒井清太郎	畠中元弘	川上賢司	徳光善治
	渡辺昇	倉西茂	渡辺健	増田重臣	山田善一	船越稔	沼田淳

名譽なき国家の支配をうける人間は品位を欠き、品位なき人間の選ぶ国家は名譽を欠く（橋川文三・国家と人間の品位について）

この夏で戦後 20 年を迎える。これを機に各方面で戦後の意義が再び大きく考えられていることは、よりよき明日のために決してむだなことではあるまい。われわれも今日の時点で静かに戦後の意味するところを考えてもよいのではなかろうか。

× × ×

昨年の今ごろの東京はものすごい水ききんであった。それにくらべて今年は異常ともいえるほどの降雨と寒い夏。雨=災害が成立しえない国土はいつの日完成され

るのだろうか。反面この水は上手に導びけば大きな利益を社会にもたらす。「モデル河口湖実験」はこの意味からも注目に値しよう。

× × ×

明治となって約 100 年。今まで外国の文献の翻案も研究として認められていたかも知れない。しかしこれからは一人で歩いてゆく気持になっていただきたい（平井敦氏）という時点にきた日本の土木技術を、年次学術講演会の展望から考えたい。多くの解決されない問題を内蔵している年次学術講演会であるといわれるが、現実のわれわれの技術水準を知る意味からも、貴重な報告として広くお読みいただきたい。

〔編集部〕

会員の入退会について（昭和 40.6.1～6.30）

入 会	765 名 (正 102 學 661 特 1.C 2)
復 活	8 名 (正 6 學 2)
退 会	39 名 (正 21 學 5 特 1.C 3 特 1.D 10)
転 格	19 名 正→學 2 特 1.A→特 級 1 學→正 1 特 1.B→特 1.D 1 特 1.C→特 1.D 1

特別会員の入退会

○入 会	昭和 40. 6. 3 特 1.D 水道機工 KK	東京都中央区八重洲 3-7
	" " 6. 14 " 東京徳山コンクリート KK 川崎工場	川崎市扇町 37 番地
○退 会	昭和 40. 6. 14 特 1.C 道路工業 KK	札幌市南 8 条西 15 丁目
	" " 6. " " KK 広野組	旭川市 4 条通 10 丁目左 10 号
	" " 6. 30 " 石川島播磨重工業 KK 札幌営業所	札幌市北 2 条西 4 丁目 1 番地
	" " 6. 7 特 1.D KK 日立製作所札幌営業所	" 北 3 条西 4-1 第 1 生命ビル
	" " 6. 10 " 名古屋鉄鋼 KK	名古屋市中川区昭明町 5 丁目 1-2
	" " 6. 24 " KK 谷組	札幌市南 4 条西 10 丁目 10 番地
	" " 6. " " 北海道小樽土木現業所	小樽市稲穂町西 1-8
	" " 6. 15 " 新和機械工業 KK	川崎市見染 100
	" " 6. 16 " 本田建業 KK 北海道支店	札幌市北 1 条東 2-5
	" " 6. 17 " 日立セメント製品工業 KK	東京都千代田区神田美士代町 24
	" " 6. 18 " 埼玉コンクリート KK	所沢市大字松郷 37
	" " 6. 21 " 東洋レーヨン KK	東京都中央区日本橋 2-2
	" " 6. 30 " 大洋航空 KK	" 港区芝西久保巴町 32
○転 格	昭和 40. 6. 26 特 1.A→特級 日本道路公團	東京都港区芝田村町 1-1 東電ビル
	" " 6. 30 特 1.B→特 1.D 小野田レミコン KK	" 中央区晴海 2 丁目 2-29 晴海ビル
	" " 6. 10 特 1.C→ " 川鉄パネル KK	" 中央区銀座西 1-1 東亜ビル

会員現在数（昭和 40. 6. 30）

名 誉	正会員	学生会員	贊 助	特 級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合 計 (増)
62	17 339	3 259	30	19	15	50	205	330	49	21 358 (734)

昭和 40 年 8 月 10 日印刷

昭和 40 年 8 月 15 日発行

土木学会誌 第 50 卷 第 8 号

印 刷 者 大 沼 正 吉

印 刷 所 株式会社 技 報 堂

東 京 都 港 区 赤 坂 溜 池 5 番 地

印 刷 版 印 刷 者 若 林 益 夫

印 刷 所 若 林 原 色 写 真 工芸 社

東 京 都 港 区 芝 金 杉 川 口 町 20 番 地

發 行 者 羽 田 巍

發 行 所 社 团 法 人 土 木 学 會

東 京 都 新 宿 区 四 谷 一 丁 目

定 価 250 円 (送 则 15 円)

振 薄 東 京 16828 番

電話 (351) 5130 (編集直通) • 5138 • 5139 番

新しい仮設工事の設計と施工

首都高速道路公団 理事 八島忠編著

B5判 530頁 上製函入
定価 3600円 〒150円

《読者からの声》 貴社発刊の基礎工法、仮設工法等一連の書物は我々の永年待ちこがれたものである。(国鉄・堀山明氏) 現場における仮設工事の今迄の難問が一挙にこの一冊で解決した感がある。(奥村組・石浜博司氏) 等
《本書の特色》 1.日本最初の体系的にとりまとめた仮設工法の手引 2.力学的な観点にたった仮設工法の設計が可能 3.各仮設工法の詳細なる施工法と施工例を収録 4.新しい仮設材料の紹介とその使用方法 5.現場ですぐ役立つ仮設工法の設計と施工

● 主 要

- 第1章 挖削の仮設工事 1節 土留工・仮縫切工の設計
2節 土留工・仮縫切工の施工例 (1)鋼杭と横板併用 (2)鋼矢板工
(3)ライナーブレート工 (4)コンクリート矢板工 (5)プレバクト工法
(6)イコス工法 (7)場所打ちコンクリート工法 (8)コルゲートパイプ
(9)エルゼ工法 (10)腹起し切妻 第2章 路面覆工の設計と施工
第3章 コンクリート工事の仮設 1節 型枠 (1)型枠の

目 次 ●

- 設計 (2)型枠材料 (3)フォームタイ (4)型枠支保材 (5)型枠の施工例
(6)特殊な型枠 2節 支保工 (1)支保工の型式と選定 (2)支保工に作用する荷重 (3)支保工用材料 (4)支保工の基礎 (5)各種支保工の型式
第4章 作業のための足場 (1)足場の分類と用途 (2)支柱
丸太足場 (3)丸太足場の積算 (4)支柱鋼管足場 (5)鉢組足場 (6)吊り
足場 (7)脚立・架足場 (8)養生足場

新しい基礎工法の設計

中島武・八島忠編著 B5判 420頁
定価 2600円 〒130円

《本書の特色》 1.水平方向の支持力まで含めた基礎の設計方法のすべてを網羅 2.特殊工法を含めた各種基礎工法の設計が可能 3.耐震設計地盤改良工法にもふれあらゆる基礎工法の設計に必要。

新 し い 基 础 工 法

中島武編著 B5判 255頁
定価 1500円 〒100円

新基礎工法を体系づけた良書。無騒音工法を詳述す。

新しい基礎工法の歩掛と実績

中島武・滝山養編著 B5判 350頁
定価 2000円 〒100円

《本書の特色》 新しい基礎工法の歩掛経費公開 無騒音工法の積算を詳述。本書を研究すれば 1.各種基礎工法設計可能 2.新基礎工法の見積り可能 3.機械の選定が可能

近 代 図 書 株 式 会 社

東京都千代田区神田錦町3の13
電 (293) 0796~7 振替東京 23801番

技報堂の土木工学書

価 B5判
1,300円
2,200円
共著
鈴木二郎
森和也
小寺重宣
丸安隆利
河川上・アーチ橋・永久構造物など型わ
く支保工関係の最も新しい工法・施工例
を図版と設計図を豊富に挿入して詳述。

型わく支保工の設計及び施工

渡辺昇著
B5判
2,200円
北大助教授工博

最近の橋梁は多主げた並列形式を用い剛性ある横げたを併用して格子げたとする実例が多くなっている。本書はこの理論と計算を内外の文献・著書より検討の結果、最も有効である Leonhardt Homberg Guyon-massonet 法を骨子として分り易く解説。また著者自身のおこなった解析計算の実例を豊富に収録して斯界の技術者の設計・計算の便に供した好書。

格子げたの理論と計算

● 最新刊

東京都港区赤坂溜池5・振替東京10

技報堂